

採択事業 NO.2

種 別：行政提案型

団体名：宝塚温泉まつり実行委員会

事業名：宝塚温泉まつりを軸に“自然の恵みと景観”を次世代に継承しコミュニティを発展させる事業

交付決定額：500,000 円

（事業を行おうとした動機）

紅葉谷の温泉の源泉。武庫川川面から湧き出る炭酸水。六甲長尾連山や里山。これら“自然の恵み”や“景観”は宝塚市民の共有財産であり、次世代に継承すべき“お宝”です。

私たちは「地球の魅力再発見！」をコンセプトに旧温泉街の“今昔まち歩き”を6年間継続することで、市民参加のまちづくりに賛同する人材を発掘してきました。自分だけの「ふるさと宝塚の景観」は住人、共通の誇りです。温泉、炭酸、里山、景観に感謝し、次世代に伝えるべき地域遺産として共有する祭りの開催でマンションエリアの住民と戸建エリアの住民間に交流が生まれ、コミュニティの融合と発展が生まれます。

<事業の動機>

- ① 旧温泉街の栄光の歴史や自然の恵みを地元住民はもっと知りたいニーズがある。
- ② 武庫山の森や滝など徒歩圏内に自然や発掘に値する景観があり共有したい。
- ③ 塩尾寺・宝塚聖天に住職さん、旅館の女将さんなど、“歴史の語り部”がいる。
- ④ 宝塚公会堂に保存されている宝塚温泉まつりの「子ども神輿」を児童たちが「担ぎたい」、担がせて地域を歩かせたいという保護者や地域の思いがある。
- ⑤ 武庫川右岸が整備され、景観を楽しみマルシェやラジオ体操など利活用が始まる。

この5つが動機となり令和2年8月、宝塚第一小学校区まちづくり協議会の地域ネットワーク会議で、「宝塚温泉まつり」の再興が提案されました。市民有志が令和3年2月、地元自治会、塩尾寺、ホテル若水（旅館組合）で世話人会と実行委員会を発足させ、第1回温泉まつりが2021年7月25日に開催700名の住民が参加しました。

特徴は、昔のお祭りの縁日の再現で、遊び場エリアでは市民たちが手作りで、紙芝居ダンボール遊び、石ころアート、恐竜釣りなど各ブースを展開します。子どもたちが「遊びから学べる出し物」を諸団体が持ち寄り、コロナ禍でも外で過ごせる楽しい時間を心掛けました。

第2回は2022年5月1日武庫川右岸開催。約800人が参加しました。「中高生が地域で活躍する舞台」として舞台司会を宝梅中学の放送部生徒が担当、各ブースに中高生をスタッフとして配置。小学生、未就学児童など多世代交流する場が生まれました。

第3回は「宝塚温泉800年を祝う」と銘打ち、2023年4月29日に開催。約1500人の住民が多世代交流をしました。ボランティアメンバーとして司会をする宝梅中学10人に加え、ブース運営する光ガ丘中学3人、駄菓子屋ブースを展開する宝塚第一小学校の児童たち15人が参加しました。

<必要性>

感染症で大規模校の一小では「黙食給食」「プール禁止」「運動会も修学旅行も中止」など余儀なくされました。その対策として「外遊びでび、笑顔になる」機会を作りたいという子育て中に親たちの願いと地域の5つのニーズ(動機)が合致しまつりとして結集しました。

(事業を行う目的と期待される効果)

事業の目的は3つ。第一に次世代を担う子どもたちに、温泉の歴史・文化、自然の恵みに気づく心を継承できる事。第二は地域コミュニティの発展。具体的には温泉全盛期を知る住民と、震災後転居したマンション住民約1万人との共生共創への転換です。第三は2025年に宝塚ホテル跡に転入する約650世帯の新住民を「協働のまちづくり」に巻き込み、宝塚市の中心市街地にふさわしい市民自立型のまちづくりが期待されることです。これは市の第6次総合計画「基本構想・基本計画」の根幹であり「一小校区地域まちづくり計画」の重点課題と一致します。

(1) 本事業と「第6次総合計画(基本構想・基本計画)」への推進効果

- ① 全世代で市民主体・市民協働でまつり準備←基本構想1 都市経営共に創り未来になくまち
- ② 幼い時から自然や景観に触れ、祭りに参加することで、故郷への愛や誇り、自尊感情を育むことができる←基本構想4 子どもの生きる力が育つまち「豊かな自然で遊び学び心豊か」
- ③ 武庫川左右両河川敷で温泉まつり←基本構想 5-1 都市景観「宝塚らしさを感じる景観」魅力向上
- ④ 左岸は宝塚歌劇や芸文センター、右岸は市民が広場として利活用。ゾーンの役割を都市計画の基本コンセプトとして回遊プロムナード構想へ付加価値、中心市街地の再生の可能性へ繋がる←基本構想 2。河川の整備や土砂災害対策、憩いや安らぎある水辺空間←基本計画 2-4 南部地域の持続的まちづくり、地域特性を踏まえながら駅周辺への多様な都市機能の誘導の促進。
- ⑤ 徒歩圏内の自然や発掘に値する景観紹介←5-2 緑化・公園、里山・まち山の保全再生

(2) 本事業と「一小地域ごとのまちづくり計画重点課題」の実施効果

- ① 中学生がまつりの舞台に←重点4「次世代を育む」中高生が地域で活躍する場づくり
- ② 地域の魅力再発見事業を引き続き継続し昔を知る住民と震災後のマンション街の住民との交流を促進←重点2「地域をつなぐ」マンション居住者とのコミュニケーション
- ③ コミュニティの核となるまつりを再興し歴史文化の継承←重点 1 継承と発展(歴

史・文化・環境・賑わい) 武庫川右岸まちづくり、多世代交流、文化歴史に触れ地域への愛着と誇り醸成

- ④ 「湯のまちの歴史の冊子」を小中学校区に広く配布。児童生徒にわが町の歴史を知り、「Z世代が提案する宝塚のまちづくりシンポジウム」(2022年12月5日開催)で中高生から未来のまち提案←重点4「次世代を育む・中高生が地域で活躍する場づくり」
- (3) 温泉、炭酸、里山、景観を次世代に伝えるべき地域遺産として市民間の相互理解が進み、マンションで暮らす住民と戸建で暮らす住民間に交流が生まれ、コミュニティの融合と発展が生まれる。
 - ① お祭りなら、旧住民、新住民なく多世代、多文化共生ができる。
 - ② 炭酸ウイルキンソン 120 年を記念に「TANSAN ポルカ」を市民が復活演奏し、振り付けフォークダンスを楽しむなど、様々な市民が、温故知新と令和流アレンジを主体的に楽しむことで相互理解が促進する。
- (4) 里山を守る「櫻森」さん、地域で紙芝居40年の「ちょうちょう」など、環境から文化を継承する多彩な市民団体、地域のお店や事業者とパートナーシップが生まれる。

(事業の内容)

(1) 祝800年イベント 第3回宝塚温泉まつり

(実施時期) 2023年4月29日(土) 午前11時~午後3時

(場 所) 武庫川右岸芝生広場

(参加人数) 約1500人

(ターゲット) 親子参加。終日楽しめる場づくり、青少年が活躍する舞台づくり

(協力団体) 宝塚自治会、宝塚南口自治会、一小まち協、塩尾寺、櫻守の会、
宝塚温泉旅館組合、アサヒ飲料、ナチュラルスパ宝塚

(内 容) 子ども広場&パフォーマンスステージ

紙芝居、温泉クイズ、温泉写真展、木工作、竹トンボ遊び、石ころアート
恐竜釣り、炭酸ウイルキンソン 120 年を記念に「TANSAN ポルカ」を
市民が復活演奏し、振り付けフォークダンスを楽しむ

(担い手) 25 団体約100人の実行委員

(成 果) ①「温泉800年炭酸120年」を市民から発信できた。

②当日舞台の司会を宝塚中の放送部が務めるなど若い世代が参加増える。宝塚温泉まつりは、第1回目は2021年7月25日武庫川左岸にて700人規模。第2回目は若い世代を舞台に上げ、各ブースに高校生や大学生を配置して小学生児童と対話する運営など、目的意識的努力が実り目指すまつりづくりへのステップとなった。第3回目も右岸で1,500人規模の開催。一小児童

による駄菓子屋ブースなど体験型模擬店など新規開発が進む。

③騒音対策、河川転落防止体制マニュアルが完成し執行するなどに至る。

(2) 祝800年イベント 田辺真人さんと宝塚温泉歴史まち歩き

(実施時期) 2023年11月

(場 所) 宝塚市内中心市街地

(参加人数) 約100人

(目 的) 宝塚温泉の歴史文化を学び、景観を楽しむ、

(ターゲット) 多世代・文化人交流

(内 容) まち歩きルート 紅葉谷の温泉源、迎宝橋、塩尾寺、長寿ガ滝など

(3) 祝800年 宝塚温泉のPRとして「湯塚かえる君」を広める

「ナゾの湯のまち宝塚」などのナビゲータ役として定着した、イメージキャラクター湯塚かえる君をユルキャラとして広げる

(実施時期) 2023年11月

(資金調達) 制作資金70万円集める方法を考える

(協力団体) 宝塚温泉旅館組合、市民からの寄付など民間で調達

(成果目的) 全国温泉などへ宝塚温泉が今もあることを知ってもらい、マイクロツーリズムへの扉をひらく

(4) 祝800年 旧宝塚温泉街のMAPを制作

(実施時期) 2023年11月

(資金調達) 制作資金70万円集める方法を考える

(協力団体) 宝塚温泉旅館組合、市民からの寄付など民間で調達

(成果目的) 全国温泉などへの宝塚温泉が今もあることを知ってもらい、マイクロツーリズムへの扉をひらく